

議 会

臨時会

平成28年第3回臨時会は3月28日に招集され、提出された案件を審議し閉会いたしました。

北竜町議会災害対策特別委員会

平成27年度に行った調査結果についての中間報告。

予算審査特別委員会

■調査期日

・4月13日(水)

■審査事件

・平成28年度補正予算

(政策予算・5会計)

■審査結果

原案どおり可決すべきものと決定する。

同意可決

○北竜町表彰に基づく表彰について

原案可決

○町長、副町長、教育長の給与に関する条例の一部改正について

○北竜町ふるさと応援寄付条例の全部改正について

○北竜町定住促進奨励金等の交付に関する条例の一部改正について

○乳幼児等医療費の助成に関

する条例の一部改正について
○北竜町空き家等の適正管理に関する条例の一部改正について

○非常勤職員の報酬及び費用弁償支給に関する条例の一部改正について

○平成28年度北竜町一般会計補正予算(第1号)について

・既定予算額に889,172千円を追加し、総額を3,311,172千円とする。

○平成28年度北竜町立診療所事業特別会計補正予算(第1号)について

・既定予算額に3,445千円を追加し、総額を117,445千円とする。

○平成28年度北竜町介護保険特別会計補正予算(第1号)について

・既定予算額に1,380千円を追加し、総額を239,380千円とする。

○平成28年度北竜町特別養護老人ホーム事業特別会計補正予算(第1号)について

・既定予算額に300千円を追加し、総額を422,300千円とする。

○平成28年度北竜町簡易水道

事業会計補正予算(第1号)について

・既定予算額に889,172千円を追加し、総額を3,311,172千円とする。

○平成28年度北竜町簡易水道事業会計補正予算(第1号)について

・資本的収入で87,678千円を増額し、総額90,606千円とする。

・資本的支出で87,741千円を増額し、総額96,877千円とする。

承認

◎専決処分の承認を求めるところについて

○平成27年度北竜町一般会計補正予算(第8号)について

・既定予算額に19,297千円を追加し、総額を3,507,389千円とする。

一般質問

3名の議員から3件の一般質問がありました。質問内容については、6月号に掲載予定です。

定例会

○平成27年度北竜町一般会計補正予算(第7号)について
・既定予算額に56,928千円を追加し、総額を3,488,092千円とする。

平成28年第2回定例会は4

月12日に招集され、提出された案件を審議し閉会いたしました。

委員会報告

まちづくり等調査特別委員会

平成27年度に行った調査結果についての中間報告。

一般質問

3月8日に開会された第1回定例会では、3名の議員から3件の一般質問がありました。



藤井議員

定住促進について

藤井議員

北竜町では定住促進、人口増加、産業の応援として、子育て支援の充実や新築住宅の助成、企業の従業員雇用の助成金など多くの施策がなされているが転入する際、これらの支援の対象外となる人が多いと感じる。人口が二千人切った今、移住者の支援策として賃貸住宅等の家賃助成について考慮する必要があると考えるが、理事者の考えを伺う。

佐野町長

本町における定住施策については、「北竜町まち・ひと・しごと地方創生総合戦略」において、平成三十一年度まで、住宅や雇用に関する支援などを策定したところである。「移住者に対する賃貸住宅の家賃助成」については、管内の状況を調査したところ転入者へ対し、民間賃貸住宅家賃助成や引越し助成金の支給を行っている自治体もあり、北竜町にどのような制度が合うのか今後検討していきたい。

藤井議員

北竜町は自然・食べ物・温泉さらには、温かな町民がいて素晴らしい町と感じるが、移住定住には結びついていない。新たに人口増加につながる定住促進の計画、また、人口減少に対応する専門の部署

も必要と考えるが理事者の考えを伺う。

佐野町長

「新たに人口増加につながる定住促進計画」については、昨 year 民間賃貸住宅の建設、さらに取り壊しを予定していた桜岡住宅を改修し、移住定住者への公営住宅の確保に努めたが、現在空き住宅が無い状況にある。そこで新たに公営住宅、又は民間賃貸住宅の建設促進並びに空き家の有効活用など検討が必要な状況であると考えている。移住促進は、仕事・住宅・支援策などの環境整備と町の魅力発信が移住者の動機付けになると考えており、今後は定住促進の手段として農業を職業としたい人が集まる「新農業人フェア」に参加し、新規就農者や農業体験実習生の受け入れをJA等関係機関と協力をしながら、積極的に取り組んでいきたいと考えている。また、企

画振興課では、多くの施策をこなしながら定住対策について対応しているが、人口減少に対応する専門部署は現在無い状況である。色々な施策の中で道や企業からの派遣、さらに地域おこし協力隊も増員することとなり、企画振興課職員の充実をはかり、その中で十分に定住対策について対応し、今後専門部署が必要と感じた時には議会と協議し、設置も検討していきたいと考えている。

藤井議員

最後に北竜町商工業元気支

佐野町長

今後北竜町において、どのような制度が必要なのか充分検討していきたい。



佐光議員

健康と長寿の町を 目指して

佐光議員

私たちにとって最も幸せなことは、健康で長寿を全うすることである。日本人の平均寿命は世界でもトップクラスだが、健康寿命は男性で9歳、

女性で12歳も短い。このギャップの差を縮め、健康寿命を延ばすことによって、医療費の削減だけではなく高齢者の生産活動や町づくり等に生かすことが出来ると思われる。

その為には①早期発見・早期治療のためにも、どう各種健康診断等の検診率の向上を図るか。②中心をなす健康指導体制（保健師）の充実。③避けては通れないガン対策。④更なる健康予防対策等について、町長の見解を伺う。

佐野町長

健康寿命とは、介護などを受けて日常生活を送れる期間を示しているが、逆に平均寿命との差が広がると医療費、介護費が増え高齢者の生活の質が下がると言われており、政府は今後五年間に健康寿命を一歳以上延ばすことを目標としている。

よく生活習慣病の予防には一に運動、二に食事、しっかりと禁煙をして最後に葉という言葉があり、運動と並んでバランスのとれた食事が大切だと思っっている。

質問の各種健康診断等の検診率の向上については、平成二〇年度から開始した特定健康診査は五〇%前後の受診率で推移しており、今後とも受診率の向上を図るためアンケ

ート調査等課題を明確にし、未受診者対策を図っていきたいと考えている。

次に、中心をなす健康指導体制（保健師）について、三月で二名の保健師が退職するが、新たに二名の保健師を確保し、現在の体制を維持しながら今後とも万全を期して参りたい。

ガン対策については、二人に一人が一生のうちにガンと診断されると言われている。本町においても例外ではないだけに早期発見、治療に向けてガン検診は重要な役割を果たしている。受診者の高齢化、生活形態の多様化等が進み、集団検診を受けることが困難な方々も増加しており、平成二十二年度からは人間ドッグ助成事業を開始してきた。また、平成二十四年度から前立腺ガン検診を開始し、今後とも各種ガン検診事業を実施していく考えである。

最後に健康予防対策について、健康寿命を延ばし健康で明るく充実した人生を送るためには「各々が自ら健康を守る」行動をとり、生涯継続し

ていくことが重要であり、「北竜町健康づくり計画」の後期計画を見直した。住民ひとり一人が心身ともに健やかに暮らせるよう、今後とも保健活動を推進して参りたい。

佐光議員

健康保健の中心を担う現在の保健師二名が退職し、新たに保健師を二名採用したというが今と同じ体制で充実を図ったといえるのか。例えば検診率を上げる為には、保健師自ら家庭を巡回し、啓蒙している町もある。また、ガン対策も「北竜町健康づくり計画」ダイジェストによれば、ガン死亡率が平成二十一年より平成二十六年は約三倍に増加している。さらに、各種検診率も殆ど横ばいか低下しているだけに保健師の充実をはかることが必要だと感じるが、再度考えを伺う。

佐野町長

今回新しく入る保健師は、キャリアがあり即戦力で対応が出来ると思っっている。

佐光議員

今後若い人口が急減するだけに、健康寿命を高め高齢者が町づくりにどう関わるか、

この課題を二期目のスタートに向けて挑戦していただきたい。



佐々木議員

教育行政全般における現況と今後のあり方について

佐々木議員

教育は未来への投資である。生まれた子供を成人にするまで教育し育てるのが地域の大きな役割である。そんな観点から四点の質問をする。

① 幼児教育について

和保育園は無認可ではあるが開園後五十二年目を迎えている。認可、無認可、認定こども園それぞれの違いを、さらに保護者、保育士そして子供達の考え方をどう把握しているのか。

② 小学校教育について

真竜小学校も複式化が予測される中で、今後小中併設校の考えがあるのか。又スクー

ルバスは、現在地域公共交通としてうまく利用されていると思うが、スクールバスが本来あるのは教育環境下にある子供達の為の運行手段である。その子供達が放課後のスポーツ少年団活動にスクールバスを使用できない理由は何か。また、学童保育の状況についてもお聞かせ願いたい。

③ 中学校教育について

北竜中学校は生徒数の減少により、部活動、団体競技の活動が困難を極めている。空知、北空知圏での広域連携の考えはあるのか。

④ 小さな町の挑戦について

先日今後五年間の過疎地域

自立促進計画が出された。地方創生検討委員会も立ち上げ半年かけてその内容が協議された。町民が主役の町づくりの為、町長がリーダーシップを発揮し、自分の信念をしつかり持って町民に語り、議論し修正をしながらこの計画を進めるべきと思うが考えを伺う。

本多教育長

現在の真竜小学校は昭和四十五年、北竜中学校は昭和五十年に統合校として建設された。真竜小学校建設当時は町内の小中児童数六百九十九名であったが、現在は小学校で六十七名、中学校で四十二名合わせて百九名で、当時の七分の一となっている。小中各校舎も建設から永年経過し、大規模な改修等が必要な時期になっている。その時には小中併設校についても検討したい。

スクールバスについては地域公共交通、登下校、各学校行事等に利用しているが、学校から帰宅後の少年団活動での利用は、国から補助金を受

けてバスを購入していることから国の制限があり利用できないこととなっている。町として少年団活動に対して、指導者の養成費や少年団交流の為のバス代を助成しているの

で理解いただきたい。中学校の生徒数の減少は、近隣の町でも同じ課題を抱えている。今後生徒に安定した部活動やクラス替えのできる環境を作ること必要である。

北空知各町の動向も考慮しながら、他町との共同による広域での中学校の設置についても検討課題の一つと考えている。

佐野町長

認可、無認可保育所の相違点は、①国が定める所得区分の基準によって保育料が算出されること。②保育所内に給食施設を整備すること。③保護者が保育に欠ける場合のみ預けることができるというのが認可保育所であり、認定こども園は、幼稚園と保育所の両機能を有し教育と保育を一体的に行なうものである。

和保育所は無認可の保育所

として、永年地域に根付き親しまれ、子供たちの健全な保育を実施してきた。無認可保育所ではあるが、その時代に即した保護者のニーズに合わせて可能な限りの保育運営を行ってきた。平成十九年から

は子育て支援の一環として保育料の半額助成を行っており、今後とも保護者の要望を聞き、時代に合った保育を行う。

学童保育元気っこクラブは平成九年四月より開設し、現在は小学一年生から三年生までの三十名の児童が在籍しており、放課後から午後五時三十分迄改善センター内で実施している。町長室解放デー等で、若い母親の皆さんからも色々な課題、要望を聞かせてもらっている。今後担当職員、保育園園長、保育士と共に検討協議し改良できる事は進めて行きたい。

小さなまちの挑戦ということであるが、昨年の国勢調査で北竜町の人口は二千人を切ってしまう、北竜町を取り巻く環境は非常に厳しくなっている。ひまわりと安全な農産

物生産、さらに色々な健康活動、福祉等先んじて一歩前へ進め、住む人が活力に満ちて、

心豊かに光り輝く町づくりの為、全力で取り組みたい。

議員コラム

もう5月、そう感じられる方は多いだろう。ある学者によれば、人は経験を多く積むことでより時間の経過を早く感じるらしい。よって、一般に年齢を重ねればその感覚は強くなることだ。

少子高齢化も進み、北竜町はついに人口二千人を割った。昨年の今頃コラムにも書いたが、国主導で地方創生「まち・ひと・しごと創生本部」が設置され、全国の市町村では総合戦略を策定し、地域経済の活性化などの目標と共に、人口減少の鈍化等が期待されているが、なかなか難しいのが現実だ。

将来の町づくり（政策）は

既存の行政サービスを確保しつつ、積極的に提供し続けるいわば拡大傾向型だが、将来間違いなく町として重要な構成要素の一つである。人口減少が確実な今、町民に希望の持てる未来を提供するために、どのような道を進むべきか再考の時だと感じる。

将来を見据えて考えを起すか、将来を仮定して今を考えていくか。あなたはどちらだろうか。

（小坂 一行）